

下都賀管内水稻技術資料 No.3

令和5年7月25日
下都賀農業振興事務所

重点ポイント

- ① 早植は7月21日に出穂期を迎えました！
- ② 早植は高温対策を実施しましょう！
- ③ 普通植は間断かん水を継続して、根の活力維持を！

1 気象の経過

6月～7月にかけて、平年よりもかなり温暖に推移しました。7月に入ると極端な高温と小雨が続いています。
関東地方は7月22日頃に梅雨明けをしました（平年より1日早く、昨年より3日遅い）。

表.小山市アメダス

	6/21～30		7/1～10		7/11～21	
	本年値	平年差・比	本年値	平年差・比	本年値	平年差・比
平均気温	23.8℃	+1.1℃	26.6℃	+2.5℃	28.2℃	+3.1℃
降水量	81mm	156%	31mm	51%	15mm	28%
日照時間	35時間	99%	54時間	138%	75時間	171%

2 気象庁の1か月予報（7月20日発表）

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）			
気温	関東甲信地方	向こう1か月 07/22～08/21	10 20 70
		1週目 07/22～07/28	10 30 60
		2週目 07/29～08/04	10 20 70
		3～4週目 08/05～08/18	20 30 50
降水量	関東甲信地方	向こう1か月 07/22～08/21	40 30 30
		日照時間	関東甲信地方

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

少なくともお盆過ぎまで高温が続く見込みです。

- ① 高温障害、② 強い積乱雲による、大雨・強風・降雹、
- ③ 台風 が懸念されます。

災害に備えて、事前・事後対策を確認しましょう。



3 早植・水稲生育診断ほ（7月20日調査）の生育調査結果

7月20日時点では、昨年と比べ、草丈は高く、茎数は少なく、葉色はかなり淡くなりました。出穂期は7月21日（昨年よりも4日早い）になりました。水稲の生育診断事業開始(1986年)以降、最も出穂が早くなりました。

なお、令和3年産と比べると、草丈がかなり高く、茎数がやや多くなっています。

表1 水稲生育診断ほ（小山市鏡）の生育調査結果

品種：コシヒカリ 移植日：5月3日	本年 (7月20日調査)	昨年	令和3年産
草丈(cm)	107.1	101.7	98.3
茎数(本/m ²)	502	541	484
葉色(葉色板)	3.2	4.1	3.2
幼穂長(cm)	出穂	21.4	21.8
出穂期	7月21日	7月25日	7月25日

※昨年は生育過剰の傾向があったため、一昨年のデータも参照

4 早植えの栽培管理

◎水管理

高温障害により、玄米品質低下（胴割粒、白未熟粒）が助長されます。

- ① 出穂期から 20 日間のほ場内水温、地温を下げましょう。
間断かん水を継続し、気温が下がる夕方以降に入水しましょう。
- ② 落水時期は出穂後 30 日頃としましょう。
その後も高温・多照が続く場合は、ほ場条件を考慮し、
収穫7～10 日前まで走り水を行いましょう。
- ③ 台風通過後のフェーン（高温・低湿）時は入水し、根を健全に保ちましょう。

【胴割粒が発生しやすい基準温度】

○出穂後 10 日間の最高気温の平均：30℃以上

【白未熟粒（乳白等）が発生しやすい基準温度】

○出穂後 20 日間の最高気温の平均：32℃以上

○ // 平均気温の平均：27℃以上

○ // 最低気温の平均：23℃以上

※直近1か月の降水量が少ないため、ダムの貯水率が減少傾向にあり、渇水のおそれがあります。渇水時には番水に取り組むとともに、ポンプでくみ上げによる排水の反復利用などを実施しましょう！

5【参考】普通植・水稻生育診断ほ(栃木市皆川城内町)の生育調査結果

7月20日時点では、昨年と比べ、草丈・茎数・葉令は同程度、葉色はかなり淡くなりました。幼穂長から予測される出穂期は、8月10日頃の見込みです。

表3 水稻生育診断ほ(栃木市皆川)の生育調査結果

品種：とちぎの星 移植日：5月23日	本年 (7月20日調査)	昨年
草丈(cm)	80.5	80.7
茎数(本/m ²)	386	373
葉齡	11.7	11.4
葉色(葉色板)	3.2	4.4
幼穂長(cm)	0.4	0.2

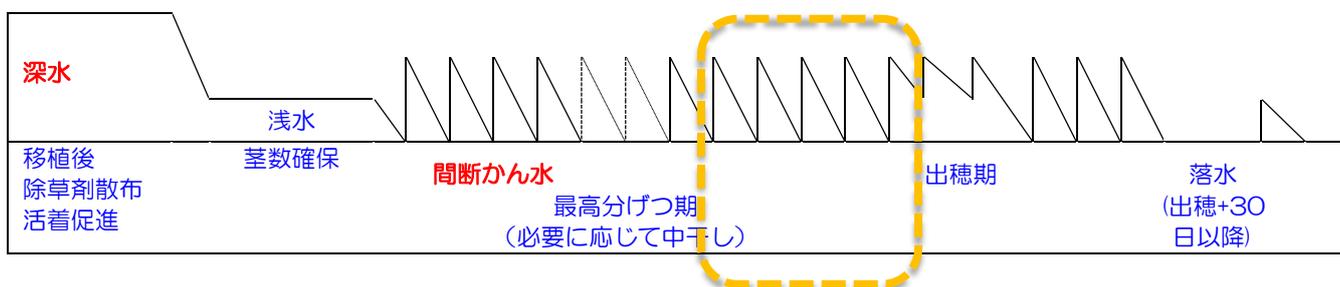
6 普通植の栽培管理

◎水管理

出穂まで**間断かん水を継続**し、根の活力維持に努めましょう。

出穂期は最も水を必要とする時期です。不足しないように注意しましょう。

※状況が許される地域ならば、掛け流しかん水を行うなど、穂の周辺の気温が高くないような管理を行いましょ。



◎斑点米カメムシ

高温、少雨の条件下では、発生が多くなることが予想されます。イヌビエやホタルイといった水田雑草や、メヒシバやエノコログサといった畦畔のイネ科雑草は斑点米カメムシ類の**誘引源、発生源、本田内へ侵入するための中継点**となります。

本田内の除草及び、水田周辺の草刈りを行い、カメムシ類が生息しにくい環境作りを行いましょ。

水田周辺の草刈りは、

① 水稻の出穂 2~3 週間前、

② 出穂期頃

の 2 回行くとイネ科雑草の子実が作られないので効果的です。

(2 回除草ができない場合は、**出穂期 10 日前まで**に除草をすませましょ！)



アカヒゲホソミドリカスミカメ



クモヘリカメムシ

イネカメムシが確認されています！！

ー昨年に引き続き、今年も栃木県（小山市、野木町、栃木市、壬生町）での発生が確認されました。

イネカメムシは、吸汁力が強く、籾の中身を全て吸ってしまうため、不稔を引き起こします。

発生が見られた場合、カメムシ類に登録のある薬剤を散布しましょう。



イネカメムシ

～栃木県からのお知らせです～

6月～8月は、「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。



- ・安全作業の第一歩！ 農薬散布時の身支度は万全に！
- ・いつものチェック！ 農薬使用の際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！
- ・農薬散布のその前に！ 風量や風向きに注意して、飛散防止に努めましょう！
- ・周辺への配慮！ 住宅地等でやむを得ず農薬を使用する際は十分に配慮しましょう！



とちぎグリーン農業推進方針について
栃木県HPからご覧ください

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/green-nougyou.html>



問い合わせ先

栃木県下都賀農業振興事務所 経営普及部 農畜産課 0282-24-1101

HP <http://www.pref.tochigi.lg.jp/g54/index.html>